

No.	助言・意見
1	<p>・健康増進広場は多世代を対象にしている。メディカルウォーキングコース（以下コース）の利用対象者について、歩く人を主に想定するのなら、高齢者だけが利用するイメージになってしまうのではないか。また、実際は走る人もいれば、ポールを持ってノルディックウォーキング等をする人もいるので、安全確保のためにコースの幅員をもう少し確保してほしい。車いすや松葉杖の人も考えられる。</p>
2	<p>・健康増進広場内のコースの幅員を大幅に広げるのではなく、使い分けができるように工夫してほしい。設定したコースが重なる部分は、歩く人等が往復ですれ違いできるように幅員を広めに整備してほしい。</p>
3	<p>・コースのネーミングで初級、中級等の表現があるが、リハビリの過程の人、予防的に健康増進したい人等、どこに目線をおいて言葉を使っているのかによって内容は変わるのではないか。</p>
4	<p>・健康増進広場において、どういう意図を持ってゾーン分けを検討したのかやゾーンの位置関係を整備方針（案）に書いた方が良いのではないか。</p>
5	<p>・雨天時でも歩ける南北自由通路等を含んだコースは一般の人も歩いているので、歩く道のライン等含めてコースが一般の人に認識されるサインを検討する必要がある。また、普段は公園まで来ることがない人が生活圏の中で、ルートがつながる公園があることを知ってもらうきっかけになるので、駅、道路を巻き込んだサインづくりをしてほしい。コース名を付けるだけでなく、健康運動施設への動線を確保した上で、雨の日は思いやりを持って譲り合う等の雰囲気を作れるよう、駅と市が協力して進めてほしい。</p>
6	<p>・健康増進広場以外のエリアとつながるコースも同様に、コース名をつけるだけでなく、サインによりランニングの人は外周を回るよう誘導して、ウォーキングとランニングはゆるやかに譲り合うこと等を意識付けした方が良い。</p>
7	<p>・普段働く人も含めてまち全体が健都であって、健都を歩く動線のサインは、歩くことが良いことだという意識になるひとつのアプローチとして、日々の生活から健康意識が高まるものになるのではないか。</p>
8	<p>・健康運動ゾーンへは病院からのアプローチが長い、リハビリのためにここまで来る価値が作れるのか、日々の生活の中で、健康遊具等を設置する場所に来てもらうにはどうしたらいいのか等を検討した方が良い。特に健康遊具等は使い方が分からないという意見もある。行政側が良いと思って設置しても、利用者が継続的に使わないケースがある。健康遊具等の使い方を利用者に分かってもらえるように、メリットは何かをサインの表示だけでなく、定期的なセミナー等で行うことも必要ではないか。</p>
9	<p>・メディカル広場という名がついているので、医学的なエビデンスがあることが強みになる。ここは他の公園と違うと思ってもらえるような、エビデンスが見えるアイデアがあると良い。</p>
10	<p>・整備方針（案）の中で「指定管理者制度の導入」とあるが、他にも様々な手法があるのではないか。また、同（案）の中で「ICT※やソフトウェアを取り入れて」、「イベント等の企画や開催」とあるが、指定管理者制度においては、有料のいろんなイベント等も含めて、どこまで民間の門戸を広げるのが大事になる。予算の面からも持続性という意味で、行政が事業運営をもち続けることは大変なのではないか。 【Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。】</p>
11	<p>・質の高い管理を持続的に行うことを目指す上で指定管理者制度がふさわしいという判断なのか。指定管理者制度の導入を目指すとして、方法は一つだと言い切っているように見える。</p>

No.	助言・意見
12	<p>・質の高い管理を持続的に行うためには、前段階で担い手が連携して協力することが必要。その前段階を受けて、指定管理者制度を検討するのであれば良いと思うが、前段階が抜けているのではないか。</p>
13	<p>・ICTは個人情報が発生する。また、ソフト及びハードウェアはバージョンアップが必ずあり、その都度お金がかかる。民間企業がこの公園に価値があると思えば、by〇〇と企業名称を表示する等の方法で、ソフト及びハードウェアを無償で提供することもあり、バージョンアップ等を企業側でやってもらえる。そういう企業と進めることも考えられるのではないか。</p>
14	<p>・観光分野ではDMO※という手法がある。DMOでは国や地方自治体を含めて観光産業に関わる地域の幅広い方々と一緒に事業を進めるマネジメント機能を持つ。DMOまでいなくても指定管理者に全ておまかせにならないように、施設の中に入る様々な業者等も参加し、調整をするための話し合いの場が必要ではないか。 【※Destination Marketing/Management Organizationの略で、地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織を指す。】</p>
15	<p>・指定管理を円滑に進めるには行政能力を高める必要がある。例えば、指定管理期間終了後に評価をして見直しを図り、さらに魅力をつけるために行政だけでなく、各関係者が協議するような場が必要ではないか。</p>
16	<p>・指定管理を実施する公園で、市民の声や活動する方の声を反映して、指定管理開始から5年経って良くなっている事例は参考になるので調べてみると良いのではないか。</p>
17	<p>・摂津市と連携して取り組むという言葉が今回の整備方針（案）にはない。「平成30年の本格的な「街びらき」に向けて、健都を構成する吹田市と摂津市の両者の健康づくりの連携を発展させ、例えば、その3kmにおよぶ緑の遊歩道を健康増進広場から始まるウォーキングの場として積極的に活用する事業を開発する。」もしくは「遊歩道を使った健康ウォークや公園を活用した健康体操などの開催などを通し健都での吹田市、摂津市の健康づくりの協調取組みを展開する」等、何か一言入れてほしい。</p>
18	<p>・健康増進広場は北摂の方のみならず、様々な方が全国から訪れるような、日本を代表する健康増進の場になってほしい。そういうメッセージを整備方針（案）に出した方が良いのではないか。</p>
19	<p>・運動を継続するには、見える化の仕組みが大切。そのためにICTやソフトを整備することが必要。高齢者は運動機能がよくなる人は少ない。ゆるやかに落ちる人、運動しなければ極端に落ちる人、横ばいであれば良い等、それらのことが分かる形にするためのモニタリングは大切。</p>
20	<p>・健康になることによって御褒美をもらえる等の仕組みを作ってはどうか。企業を入れて、集客は企業が考えるということを含め全面的に出す方が良いのではないか。</p>
21	<p>・この地域でICTを健康増進に特化して使うことを考えると、投資対効果が数年間は見込めない可能性があるが、ICTを別の用途にも使うことができる。例えば、Wi-Fi環境を整備して通信を自由に使える空間にすると他の目的にも使える。健康増進広場でWi-Fiを使うことができれば、指定管理者にICTを使った取組の検討をお願いした場合に提案がしやすくなるのではないか。</p>
22	<p>・運動したときに血圧や脈拍等を測定する機器等は企業も検討しており、Wi-Fiで通信するのがメインなので、環境だけは先に整備して対応できるようにした方が良いのではないか。企業は具体的な測定データに対してコメントができるような仕組みを考えているようだ。</p>
23	<p>・場所等の名称で、リハビリという言葉を使うと、リハビリの人しか使わないイメージになる。ポジティブなイメージの言葉にする等、検討した方が良いのではないか。</p>

No.	助言・意見
24	<p>・どのようなものを作るのか、我々のイメージと企業側のイメージが同じなのか。健康・医療の事業に参入しようとする企業等が、現場を知らない例は数多くある。企業等が入り、事業の継続を考えるには、健康・医療の現場を知らなければ、ニーズに合ったものができるのではないかと。</p>
25	<p>・ワクワク感はハード部分ではなくソフト部分にある。人に健康増進広場に来たいと思わせるのはソフト部分だと考える。健康増進広場が良いものになるように、ハード整備後の議論に力を入れるのであれば、そこに意見を言わせてほしい。</p>
26	<p>・健康増進広場が整備されて完成ではなく、そこから利活用を検討し、ソフト面を充実させ、バージョンアップをして進めるものと理解している。</p>
27	<p>・Wi-Fi等、先に整備しないと後で広げることができないことは整備した方が良い。今後健康増進広場を発展させるには、各委員が所属する組織等で、どのようにすれば面白いことができるのかを検討することが必要ではないかと。</p>
28	<p>・指定管理者制度にするのであれば、いかに「見える化」を進めるか等、ソフト部分で押さえる必要があることを整備方針（案）で示した方が良いのではないかと。</p>
29	<p>・屋外で音楽を使う場合は必ず電源が必要になるので、広場内の配線等についても検討しておいてほしい。運動スポーツをする際に、音や映像等を使うことで変わるので、Wi-Fi含めて基本的な配線は重要と考える。</p>
30	<p>・整備方針（案）の「エリアマネジメントの連携も見据えつつ」という文言について、エリアマネジメントに取り組むメッセージは大事だが、CCRC※とつなげて文言が出ると唐突で理解が難しいのではないかと。CCRCを出すのであれば生涯活躍のための学び、交流の場、住まいの問題等様々な議論が必要と考える。</p> <p>【※Continuing Care Retirement Communityの略。日本版CCRC構想は「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる」ちづくりをを目指すもの。】</p>